

ハチドリのひとしづく

R4.12.23_Friday_【心を育む生徒指導通信 No8 : 通算 51 号】

作成者・教諭 花園修兵

すっきりしない天気が続きますが、心は・・・もうすぐ冬休みですね。少しウキウキした気分ではないでしょうか。2022年 今年も残すところあとわずかとなってきました。コロナ禍ではありますが、家族・親族との時間を大切にしながら、これまでの自分自身を振り返り、自分の心も新たに、何か一つ自分の成し遂げたい目標を掲げて冬休みを過ごしてほしいと思います。

そこで、今回の生徒指導通信のテーマは“ハチドリのひとしづく”です。
・・・ん？ なんだそれは？ という感じですね。話を進めていきましょう。

突然ですが、皆さんは、好きな動物はいますか？

犬やネコを家で飼っている人もいれば、熱帯魚や爬虫類などが好きな人もいますでしょう。

昆虫が好きな人もいます。また、家では飼えないような動物に興味関心がある人もいますでしょう。

動物は私たち人間の身近な存在です。



昔、動物占いでいうのが流行った時期がありました。今もあるのかな？

私は・・・オオカミでした（笑） まあ 嫌いじゃないからいいですけど・・・

少し脱線しましたが、私はオオカミも好きですが、とても大好きな動物がいます。

それが“ハチドリ”という鳥なんです。

好きな理由は、「ちいさなハチドリのちいさないってき”という絵本を読んだからです。

そう、オオカミは単純ですから、絵本を読んで好きになってしまいました（笑）

キューバに生息するマメハチドリは世界最小の鳥であり、全長6cm、体重2g弱しかありません。

皆さんの片手におさまるだけの体しかないんです。今日は絵本の内容を紹介しながら、ハチドリがどのような行動をとり、周りがどうなっていたかを考えてみたいと思います。



*話の内容はコピーできませんので、どのような内容をまとめます。

気になる方はぜひ、手にとって読んでみてください。

「ちいさなハチドリのちいさないってき」 ウノサワケイスケ え はしづめちよこ きかく より

広い森にはたくさんの生き物が住んでいて、太陽は金色に輝き、明るい色の花がたくさん咲き、川の水は驚くほど透明で、きらきら輝いているような楽園を想像してみてください。そこには色々な動物が住んでいます。そこに住む動物たちの楽しみは自分のすごいところを自慢することです。

強いこと、早いこと、美しいこと、賢いこと、他にも色々。

ところが、何も自慢をしない生き物がいました。

とっても小さくて、力もなく、飛ぶのも早い鳥です。

それがハチドリという鳥なんです。

いつもひとり、細くちばして花の蜜を吸っているだけです。

他の動物たちは、誰もハチドリには声をかけません。

ハチドリのことを変わっているなあ・・・と思っていたのです。

ある日、皆がいつものように集まって自慢話をしていると、突然大きな音がします。

森の一番高い木に雷が落ちて山火事になるんです。

その火はどんどん燃え広がって、森が真っ赤になります。

燃え盛る火の勢いにびっくりして皆一斉に逃げ出します。



そのときです。遠くの空に小さい何かが飛んでいます。それはハチドリでした。

ハチドリが何かをしています・・・皆は小さいハチドリをじっと見つめました。

さあ 皆さん、ハチドリは一体何をしていたと思いますか？

少し想像しながら考えてみてください。皆さんの想像したことが起こるのでしょうか？ 続きです。

ハチドリは川と森を行ったり来たりしました。

小さくちばしに川の水を含んで火事を消そうとしていたのです。水を一滴一滴運んで・・・

周りの動物たちは好きな事を言います。「あんな少しの水で火事は消えるはずない」

「そんな小さな一滴で何を消すんだよ？」「かわっているよなあ・・・」

皆遠くからただ眺めているだけです。

ここまで読んで私は、私たちが生きている社会と同じだと思いました。

ただ、次に放った小さい体のハチドリの言葉がいいんです。 続きです。

ハチドリは羽が燃えそうになりながら何回も一滴一滴水を火の上に落とすんです。

そして、馬鹿にされたハチドリが動物たちを見て言いました。

「ぼくは、今、自分ができているのさ」

この言葉で周りの動物たちはハッと 気づきます。

そして、自分たちの口、鼻、手、足を使って川の水をすくうとハチドリの後を追って森の方へ急ぎます。

ハチドリと動物たちは何度も何度も川と森の間を行ったり来たり、一滴一滴少しずつ少しずつ、自分が持てるだけの水を運びます。そして、一人の勇気が皆の行動を呼び、火事を消すことに成功するんです。

そして、いつも通りの朝が訪れる毎日へ戻る中で、一つだけ周りの動物たちに変化が起こります。

皆さんはどうなったと思いますか・・・？ これがこの絵本の結末です。

何か困ったことが起きたとき、「動物たちは・・・」

ということで、今回はここに結びを書くのをやめようと思います。

皆さんなりに答えを考えてみてください。

気になる方はぜひ、手にとって読んでみてください。

このお話から見えてくるのは私たちの生活そのものではないでしょうか。

こういうことは普段の生活場面でよく見られる現象です。

私たちの目の前には、今、自分ができることが多く転がっているんです。

もったいないのは、その自分ができることが多く転がっていることに気付かない自分がいること。

もっともったいないのは、その気づけた自分がいるのに、行動に移せなかった自分がいることです。

校外で自分が知っている人を見かけたのに挨拶しない自分。校内で来客があるのに知らない顔をする自分。

教室にゴミが落ちていないのに気づけない自分。ゴミに気付いたのに通り過ぎる自分。

トイレトペーパーがなくなっているのに取り替えない自分。周りを見て空気を読めない自分。

こんな日常が多くあるような気がします。だからこそ、穴水高校生として、全てのことを自分のこととして、

考えて、勇気をもって行動できる穴水高校生であってほしいと願っています。一人ひとりが主役の穴水高校。

教職員も生徒も、1人ひとりが、小さなハチドリのように、今、自分ができていることを考えて行動した時、

小さくても、キラリと光り輝き続ける穴水高校であることでしょ・・・

